

地域包括支援センターにおけるネットワーク構築

—地域包括支援センター職員へのインタビュー調査—

○ 寝屋川市保険事業室 氏名 柴田 知成 (8088)

キーワード：ネットワーク・地域包括支援センター・地域包括ケア

1. 研究目的

地域包括ケアにネットワークは必要不可欠なものであり、先行研究においても、その重要性や必要性は指摘されているところである。ネットワーク構築は、介護保険制度において地域包括ケアの中核機関と位置付けられている地域包括支援センターが中心的な役割を果たすこととなるが、日本社会福祉士会（2008）などが行った調査では、地域包括支援センターでのネットワークが十分に機能していない、あるいは地域包括支援センター職員がネットワークづくりに自信が無いとの報告がされている。

本研究の目的は、地域包括支援センターにおいて、クライアントである高齢者個人と地域住民を対象としたネットワークに焦点をあて、ネットワーク構築がどのように行なわれているのかを明らかにすることである。

2. 研究の視点および方法

地域包括支援センターにおけるネットワーク構築の調査や研究は多くない。そこで、まず現状を理解することが必要であると考え、本研究では、実際に地域包括支援センターに従事している職員に対して探索的な質的調査を行った。

データ収集は、2011年8月から9月に研究協力者として、3か所の市町直営の地域包括支援センター職員それぞれ1名ずつに、1か所あたり約1時間30分～2時間30分程度の個別インタビューを行った。研究協力者については、先進的な取り組みを行っている地域包括支援センターにインタビュー調査を実施することが、現状を的確に理解するためには必要であると考えた。そこで、社会福祉士等の専門職や行政機関から、ネットワークについて高い評価を受けている地域包括支援センターにインタビュー調査を行うこととした。

質問内容は、ネットワーク構築の取り組みについて、実際の行動と、その時に考えていたことを話してもらう中で、詳細について適宜確認することとした。分析方法は、ICレコーダーの録音をもとに逐語録を作成した。作成した逐語録により、ネットワーク構築に関係すると考えられるものを抜き出し、それらを先行研究に基づき、カテゴリー化を行った。

3. 倫理的配慮

調査を行うにあたり研究協力者には、文書と口頭で調査協力を依頼し、秘密保持等の説明を行ったうえで、同意書を得て行った。インタビュー内容はICレコーダーで録音し、個人が特定されないように逐語録作成の際には姓名や機関名についてはアルファベットで記載しプライバシーに配慮した。

4. 研究結果

逐語録からカテゴリー化した結果は、以下の表のとおりである。

1	ネットワークとは
1-1	マイクロネットワークとメゾネットワークは相互関係にある
1-2	ネットワークは、目的達成のための手段
1-3	ネットワークは状態
2	ネットワーク構築
2-1	アセスメント
2-2	プランニング
2-3	実施
2-4	モニタリング
2-5	成果・評価

5. 考察

調査結果から、マイクロネットワーク（ソーシャルサポートネットワーク）とメゾネットワークが相互関係にあることが明らかになった。地域介入によって事前に構築されたメゾネットワークが、実際に支援が必要な個人が現れた時に、マイクロネットワークとなり連携による支援が開始されることがわかった。また、マイクロネットワークでの個別支援により出てきた課題に対して、その課題の共通性に着目し、課題を脱個別化することにより、個人の課題を地域の課題として捉え、メゾネットワークが構築されていることがわかった。

次にネットワークは目的を達成するための手段であることが明らかになった。その目的とは、ニーズの充足であり、アセスメントから導き出される課題の解決であることがわかった。

次にネットワーク構築のプロセスは、①アセスメント、②プランニング、③実施、④モニタリング、⑤成果・評価であり、これは、菱沼（2009）の個別支援や地域介入におけるプロセスと一致した。本調査では、分析のためにプロセスをカテゴリー化したのが、実践においては各々のプロセスは重なる部分が多く、明確に分けられるものではなかった。例えば、地域のキーパーソンから話を聞き、アセスメントやプランニングを行ったのちに、実施である地域住民が集まる話し合いの場に臨むことになった場合、アセスメントで収集した情報などが実際と異なっていれば、再度アセスメントやプランニングを行う必要がでてくるからである。ただ、そのような場合においてもプロセスの順番が変わる事はない、アセスメントより先にプランニングがくることや、プランニングより先に実施がくることは、その意味内容から考えて無いと言える。